

イワシヨウブ *Triantha japonica* (Miq.) Baker

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 13。この地域の湧水湿地を特徴づける、寒冷地性植物の一つである。

【形態】

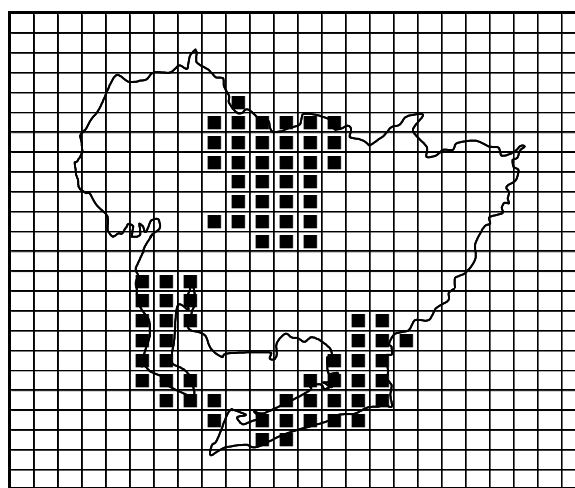
多年生草本。地下茎は短く、分枝して斜上する。根出葉は 2 列に重なり合い、中脈に沿って表面を内にして折れて剣状になり、線形で長さ 10~40cm、幅 3~6mm、多少なりとも鎌状に湾曲する。花茎は高さ 20~70cm、1~2 個の小型の葉がつき、上部に多数の腺状突起があつて粘る。花期は 8~9 月、花茎の先端に長さ 3~10cm の総状花序をつけ、苞は卵形または披針形、それぞれの苞の腋に 3 個の花をつける。花被片は 6 個、白色で時に僅かに紅色を帯び、長楕円形、長さ 5~7mm である。果実は蒴果で卵状楕円形、種子は一端に尾状の付属物がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部 (村松正雄 27141, 2013-10-12)、16 豊橋南部 (芹沢 57641, 1990-10-9)、17 田原東部 (芹沢 56702, 1990-8-28)。西：22 小原 (芹沢 52717, 1989-8-23)、23 藤岡 (塚本威彦 357, 1992-9-14)、24 豊田東部 (芹沢 53153, 1989-9-8)、25 豊田北西部 (芹沢 53700, 1989-9-30)、27 みよし (芹沢 63923, 1992-9-28)。尾：37a 瀬戸 (大谷敏和 81, 2000-9-15)、42a 阿久比 (渡邊麻子 882, 1995-10-3)、42b 半田 (芹沢 75121, 1998-9-30)、42c 武豊 (林彰一 831, 1990-9-27)、43 常滑 (芹沢 60689, 1991-10-3)、44a 美浜 (芹沢 53665, 1989-9-29)。豊橋北部から渥美半島にかけてと知多半島には比較的多く、また岐阜県東濃地方にも多いが、他の湧水湿地性植物が多い西三河から尾張北部にかけての丘陵地では稀である。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州の、主として中北部の山地に生育する。分布の西限は鳥取県伯耆大山である。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

通常は山地の湿原に生育する。愛知県の生育地は、丘陵地の湧水湿地の、日当たりのよい場所である。時には尾根などの粘土質の半裸地に生育していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

渥美半島と知多半島の湧水湿地には比較的多かったが、この地域の湧水湿地は丘陵地の開発に加えて夏期の高温乾燥傾向に伴う湧水の枯渇と遷移の進行によってほとんどが危機的な状態に追い込まれており、そのため本種も急激に減少している。

【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地には、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。保全上の優先順位も高い。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形も合わせて保全する必要がある。また、湿地周辺のやせ山状態を維持し、富栄養化を防止することも必要である。

【特記事項】

イワシヨウブと名付けられているが、通常岩上には生育しない。

【関連文献】

保草本Ⅲp.154, 平草本Ⅰp.26, 平新版Ⅰp.113, SOS旧版p.95+図版19, SOS新版p.99,101.